

# ふるさと 資料紹介

= (47) =



旧太田宿本陣門

## 史料と地名からみた 地区の歴史②

### 太田 (二)

近世に入ると、中山道が整備され、太田渡と太田宿がおかれました。太田宿では、福田家が本陣を、林家が脇本陣をつとめ、幕府の役人、大名、旗本、皇族などを泊めました。

元和元年(一六一五年)に幕府領から尾張藩領に代わり、天明二年(一七八一年)に藩の代官陣屋が太田村光徳(現太田小学校敷地)に建てられました。

支配していた地域は、加茂郡、恵那郡、土岐郡の全尾張藩領と各務郡、武儀郡、可児郡の尾張藩領の一部で、石高にすると五万六四〇七石余で

した。

代官所のしくみは、代官一人、手代六人、内詰四人、同心四人ほどでした。(坪内逍遙は、この代官所の手代坪内平右衛門の末っ子として、安政六年に生まれています)

寛政年間(一七九〇年代)には、街道筋に本陣、脇本陣を中心問屋場(二軒)、旅籠(二〇軒)、商家、民家が立ち

並び合計一二二軒をかぞえました。この町並み以外にも百姓や船頭、その他の人たちの家二二七軒がありました。

計画中の博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課(文化会館内☎内408)まで情報をお寄せください。